

はじめに

「定住外国人の子どもの就学支援事業」は、2008年秋の「リーマンショック」に端を発する世界的な景気後退により、日系ブラジル人等の定住外国人の子どもたちの就学が不安定化したことへの緊急対応として2009年度より始められた事業です。文部科学省からの拠出を受け、国際移住機関（IOM）が事務局となり、基金の運営と事業の実施を担当した。当初は2011年度までの3年間の実施を予定していましたが、経済状況もまだ上向かない中で、ニーズが引き続き存在するとして、2012年度より3年間延長されました。本事業には6年間で8751人の子どもたちが参加し、4333人の子どもたちが公立学校や外国人学校などへの就学を果たしました。これらの数値が直接的な成果となりますが、本事業を通じて得られた成果として、以下の2点についても指摘しておきたいと思います。

1点目として、これまで十分に見えていなかった子どもたちの課題を可視化したことです。不就学の子どもの数にかかると調査はこれまでも各地で行われてきたところではありますが、不就学等の子どもたちは見えづらい存在であり、子どもたちが抱える課題は十分には語られてきませんでした。本事業を通じて各地でこのような子どもたちの支援にあたったことから、子どもたちの置かれた状況やニーズが集合的に明らかになってきました。2点目として、本事業の実施を通じて、各地域で外国人の子どもたちを支援するための資源が育った点があげられます。ここでは資源の成長とは、人材の育成や支援方法の蓄積、連携体制の構築などを指しています。本報告書にまとめることができたのは、6年間に及ぶ各地の実践のほんの一部に過ぎませんが、これらの成果を今後の実践につないでいくための記録として本報告書は作成されました。

本報告書の元となったデータについて補足しておきます。2015年2月13日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて実施団体の成果報告会を行いました。本報告書に「実施団体報告」として掲載されている8つの報告のうち7つは、この会合での報告と質疑応答をもとに作成されています。成果報告会後に報告者以外からも原稿等を募り、実施団体からの報告が1つ加わりました。これらの報告については、コラム形式で関連の章に掲載してあります。

なお、本事業実施団体には、年度末のみならず、毎月の報告書提出が課されていました。本文の記載は、最終年度である2014年度の完了報告書や巻末に添付した各団体の成果報告用資料を中心に組み立てられていますが、過去年度分も含め、毎月寄せられた報告書の内容もデータとして使用しています。また、写真はすべて本報告書の作成にあたって2014年度の実施団体よりご提供いただいたものです。

末尾となりましたが、文部科学省並びに運営委員をはじめとするご関係の皆様、本事業を通じて現場での支援活動に尽力されたすべての実施団体に深く御礼申し上げます。

2015年4月
国際移住機関（IOM）駐日代表
ウィリアム バリガ

目次

はじめに

第1章 事業の概要について

(1) 事業の枠組みについて	1
①事業の背景と概要について	
②実施主体	
③IOMの役割について	
【実施団体からの報告① ムンド・デ・アレグリア学校】	3

第2章 事業の内容について

(1) 事業に参加した子どもたちについて	6
①対象となる子どもについて	
②参加した子どもの人数、年齢、言語等	
◆参加した子どもの人数	
◆参加した子どもたちの年齢・属性	
◆参加した子どもたちの言語	
◆言語と属性の関係について	
◆言語と地域の関係について	
◆地域と属性の関係について	
③地域別ニーズについて	
◆首都圏と東海地方の対比	
(2) 教室の実施について	13
①教室の概要について	
②教室の規模について	
③授業実施形態について	
④授業の内容について	
◆日本語の授業について	
◆教科学習について	
◆実技科目について	
◆母語について	
⑤架け橋サポーターの取り組みについて	
⑥「教室」としての活動	
【実施団体からの報告② ARACE】	20
【実施団体からの報告③ 日本聖公会中部教区・名古屋学生青年センター】	23

(3) 地域社会との交流	27
①地域社会を知る、地域の活動に参加する	
②地域社会への発信	
(4) 就学支援の取り組みについて	29
①「発見」から就学につながるまでの流れ	
◆対象者とつながるまで	
◆アセスメント（見立て）	
◆具体的な問題解決	
◆次につなぐ	
◆アウトリーチ型の支援活動	
②保護者との関わり	
◆保護者への情報提供	
◆保護者と子どもをつなぐ	
③教育委員会や学校との連携	
【実施団体からの報告④ 日本ペルー共生協会】	38
【実施団体からの報告⑤ 青少年自立援助センター】	41

第3章 子どもたちの進路について

(1) 就学実績	46
(2) 就学以外の退室について	47
【実施団体からの報告⑥ トルシーダ】	48
【実施団体からの報告⑦ 多文化共生センター東京】	51
【実施団体からの報告⑧ 青丘社】	54

第4章 成果と課題について

(1) 子どもたちのその後の進路について	58
(2) 地域における資源の創出と成長	59

「定住外国人の子供の就学支援事業（虹の架け橋事業）」の終了に際して61

Executive Summary.....62

資料

資料1 実施要項	72
資料2 「定住外国人の子どもの就学支援事業」概要	
資料3 主要実績値一覧	
資料4 実施団体の成果報告資料	
資料5 成果報告会資料	
資料6 2009-2014年度 実施団体一覧	